

2 時代認識と新たな方向性

旧ビジョンの柱

幅広い食育・
地産地消の推進

消費者ニーズに
応える戦略的な
生産と流通

環境創造型産業
への転換

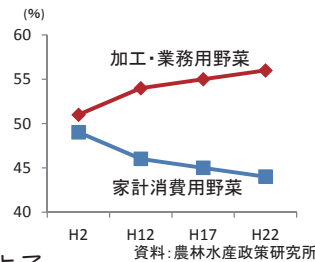
次世代に向けた
安定的な担い手
の確保

農村が持つ多面
的な機能の保全・
発揮

状況の変化

- 米価の下落
H17:15,128円/60kg→H27:13,909円/60kg
(H28年4月末)

- 温暖化の進行
平均気温(金沢)
百年間で1.5℃上昇



- 中食・外食の増加による
加工・業務需要の増加
- 新幹線開業による県産需要の増加
食品協会における県産農畜産物の取扱
5年前に比べ増加 51%
今後増やしたい 31%

- 工コ農業の取組み増加
H17:1,322ha→H27:7,509ha

- 人口減少による需要減少の懸念
県人口 H37までに▲57千人の見通し

- 農業労働力の急激な減少
H17:32千人→H27:21千人(▲33%)

- 農業後継者の不足
後継者がいない農家の割合9割(集落実態調査)

- 企業参入の増加
H17:1社→H27:51社

- 新規就農者の増加
いしかわ農業人材機構(現:(公財)いしかわ農
業総合支援機構)設置前32人/年→設置後
110人/年 ※それぞれ直近5年間の平均

- 耕作放棄地の存在
H17:5,962ha→H27:5,817ha

- 獣害(イノシシ)の増加
H17:7百万円→H27:70百万円

新たな課題

- 米生産コストの低減
- 高付加価値化
- 気候変動への対応

- 需要者のニーズの
変化への対応

- 海外需要の取り込み

- 担い手の確保

- 省力化・軽労化

- 農地集積の加速化

- 耕作放棄地発生の
未然防止と解消

- 里山での生業づくり

- 獣害対策の強化

Ⅲ

ビジョン策定に向けた新たな視点と方向性

